

異

六年

画数 11
筆順 田 里 卑 異 異

クシ イ
こと

成り立ち



顔にお面をつけようとしている人の形を表したものです。

お面は、「てんぐ」や「おに」や「さる」など、人の顔とは「ことなる」顔を表しています。

それで、「ことなる」という意味を表していました。例 異常、異状、異論、異同、異口同音、大同小異。

また、「ふつう」と「異なる」ものは「めずらしい」ものですから、「珍しい」という意味に使います。例 奇異、怪異、特異、異才。

「異なる」ことは「違う」ということでもありますから、「正しくない」「良くない」という意味にも使います。例 異心、異端。

使い方

▽自分と意見を異にするからと言って、その人をにくんではいけません。異なった意見が、自分の考えを一層りっぱなものにするのにきつと役立ちます。

▽いろいろな意見が出ましたが、大同小異で、原案に反対という意見は一つもありませんでした。

熟語例

▽異常（常「ふつう」と異なること。平常と異なること。また、正常でないこと。）

▽異状（異常な状態。ふだんと異なった様子。異常と同音なので注意）

▽異同（「異なっている所と同じ所」という意味で、「ちがいの意味に使います。例両者の異同について述べなさい。）

▽大同小異（細かい所は異なっているが、全体としてはほとんど同じと言えるほど「ちがいが少ない」こと。）

▽奇異（奇も珍しいこと。とても珍しいこと。また、不思議なこと。）

▽異心（良くない心。そむく心。例光秀は信長に異心をいだき、ついに本能寺の変を起こした。）

使い方

▽電車のあみだなに、買い物袋をおきわすれて下車してしまいました。遺失物係に問い合わせましたら、保管してあるとのことでした。

▽遺漏のないように準備したつもりでしたが、遺憾なことに手落ちがあつて、会の進行をおくらせてしまいました。

熟語例

▽遺失物（おきわすれたり、落したりして、失った物のこと。）

▽遺棄（物を「おき棄て」にすること。「おき去り」にすること。例空き地に遺棄された古道具）

▽遺漏（漏は「漏れ」。やり残しや漏れ。「手ぬかり」という意味です。）

▽遺憾（憾は「しまったと思う」こと。残念に思うこと。うらみに思う心があとに残ること。）

▽遺産（死んだ人が残した遺産。例父の遺産を相続する。また、前代の人が残した業績の意味にも使います。例 ぼくたちは、昔の文化遺産のおかげで、このようにつばな生活ができるのです。）

遺

六年

画数 15
筆順 コ ャ 卑 貴 遺

クシ イ ユイ

成り立ち



たくさんのお金の意味を表した「貴（年657）」と、道を進む意味の「手」を組み合わせて作った字です。

「道を進む途中、お金を「失う」ことを表した字です。今では、お金にかんけいなく、「物を「失う」ことの意味に使われます。例遺失。

また、「物を「残す」ことの意味にも使われます。例遺漏、遺産、遺書、遺族、遺恨。